

海老名市立社家小学校 学校運営協議会 議事録  
(令和6年度 第1回)

- 1 日時 令和6年6月14日(金) 13:30~15:00
- 2 場所 海老名市立社家小学校 家庭科室
- 3 出席委員 津々木美幸委員長、佐々木宏文委員、春日井委員、米山恵委員、朽木正美委員、中鉢裕季委員、曾我幸治委員、浅井大輔校長、尾崎由美教頭、大部信介総括教諭

4 会議の内容

(1) 挨拶

津々木会長:今年度も2ヶ月ほど経ち、1年生もだいぶ慣れてきたように感じる。今回、委員長を拝命させていただいた。教育長の言葉で「学校は地域のもの」とあった。コミュニティ・スクールを推進し「地域」に学校の取組に参加してもらえるよう力を尽くしたい。ご協力をお願いしたい。

浅井校長:皆さんや地域の力を借りて、学校運営を進めて参りたい。ご協力の程、お願いしたい。子どもたちは元気に過ごしているが、現在、すでにととても暑い日が続いている。体育や休み時間の過ごし方など、熱中症対策をしながら取り組んでいるところである。

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の津々木委員長、佐々木委員、春日井委員、米山委員、曾我委員、朽木委員、中鉢委員へ委嘱状交付。

(3) 自己紹介

(4) 令和6年度の学校経営方針について

浅井校長:今年度の学校教育目標について。大きくモデルチェンジしたわけではなく、引き続き目標を達成するため取り組んでいきたい。一点追加した点として「誰ひとりとして取り残さない学校」というスローガンを新たに掲げた。前任の梅崎校長の意思で追加されたものだが、あまり例を見ないものであり、強い思いを感じるので、是非継承しながら学校経営を進めていきたい。海老名市としてもこのスローガンを掲げ、1人ひとりを大切にされた教育を進めていくという意気込みのもと、取り組んでいるところである。また社家小の具体的な取組として、低学年から高学年まで、新たに交換授業をスタートした。学年の中で教科を割り振り、専科制として行っている。多く

の教師の目で子どもたちを育てていくことをねらいとしている。これを低学年まで下げて行っている点は海老名市でも希有であるといえる。

#### (5) 年間計画等について

大部総括教諭：日課表について。昨年度との変更点はない。年間計画について。予定なので変更がある点、ご了承いただきたい。皆様にはすでに様々な行事等にご協力いただいております、感謝しているところであるが、今後大きな行事として、運動会やふれあい教室では特にお願いすることが多いがご協力の程お願いしたい。

#### (6) 特色ある学校づくり実践事業計画について

尾崎教頭：今年度の特色ある学校づくり実践事業計画について。(資料4)海老名市内の小・中学校全てで組んでいる計画である。本校では3つの柱で取り組んでいる。1「校内研究の充実」について。今年度も国語科の研究を行っている。昨年度の終わりにひびきあう教育の研究発表を行ったが、今年度も引き続き研究を進めているところである。8月23日に、研究のまとめとして市の大会で発表することとなっている。2「キャリア教育」について。コロナ禍で停止していたが、昨年度久しぶりに復活開催ができた。いろいろな職業に携わる地域の様々な方から貴重なお話を伺う機会となった。今年度は6年生のみならず、対象を広げて3年生でも実施していきたいと考えている。今後、学年の意向も踏まえながら、人選等ご協力いただきたい。3「インクルーシブ教育」について。本校にも様々な児童がいる。全ての子を取り残さない教育の実現のため、研修会を企画等して、教員間で共通理解を図りながら推進していきたいと考えている。

尾崎教頭：「令和6年度学校運営協議会実施計画」について。(資料5)社家小学校の児童の実態や地域の特色等について記載されている。詳しくは資料を見ていただきたい。また、今年度は特に新1年生のボランティア活動に積極的にご協力いただき、大変感謝している。今後ともよろしくお願いしたい。

#### (7) 情報交換

- ・3グループで実施。

- ・テーマ『社家小の子どもたちのこんな所を伸ばしたい、こんな風に育ってほしい』

佐々木委員：コロナ禍の影響により、体力の低下、リズム感等の運動能力の低下が懸念される。何か取組ができれば。また、過去は田んぼや相模川を活用した学習をしていたが、なくなってしまったので、何かできることはないか考えてもよいかもしれない。推進していくなら水の事故等、安全面に配慮した上で行う必要がある。そういったことも協力できれば。子どもたちの放課後等の交流、外遊びも減ってきているのではないかと。遊び場

の減少、保護者同士の交流の希薄化などの影響もあるのでは。地域として子どもの遊び方への理解を深める必要がある。

また昨今、地域として一番課題と考えているのが、保護者の車による子どもの送迎である。子どもの登下校の安全のため、車での送迎を行わない旨、PTA 活動等をとおして周知を徹底していく必要がある。

米山委員：今年度、挨拶ができる子が増えてきていると感じる。また、1年生へのボランティアなど、地域の積極的な協力体制から社家の風土のあたたかさを感じる。他学年にもボランティアの輪がさらに広がるといいと思うが、現在の取組のように1年生の段階で手厚く支援してもらうことで、子どもたちは多くの人に支えられて育っていると無意識に感じる事ができるのではないか。

浅井校長：児童の挨拶について。挨拶がとてもよくできているというお声をいただいた。ありがたい。

通学路について。今まで必要箇所に横断歩道が設置されていなかったという問題があったが、一部の通学路に子どもの登下校にとって有効な横断歩道が設置されることとなった。一方、下校時にその横断歩道を渡った箇所にとどまって話をしている児童が出てくるなど、新たな指導点も明らかになった。

社家小西側道路の拡張について。学校の敷地内の桜を伐採する等して拡張をしていく計画について、自治会の方で市の職員から説明があった。もう一点、延山の第二踏切の拡張についても、地域に説明があった上で進められていく。学校には道路課からすでに説明があった。

大乘委員：5月の学校だよりについて。内容の中にあった「子どもたちのピカイチ見つけ」「ピカイチ磨き」というキーワードがとてもよかった。今後職員や保護者がそういった視点で子どもと接していけるかで、子どもの成長に大きく関わるのではないかと思う。3月での変容が楽しみである。

## (7) その他

次回の学校運営協議会は、令和5年10月11日（水）13:30から開催予定。